

## 中国人の恋愛意識

—恋愛に対する意識の日中比較—

近 藤 泉

### はじめに

中国において自由恋愛の概念は五四期にはすでに明確に誕生していたものの、改革開放以前における中国人の恋愛に対する態度・意識は、民国期であれ人民共和国成立後であれ、非常に控えめなものであった。しかし、改革開放が進展するなかで、中国人のイデオロギーは急速に開放的になり、個個人の選択を尊重して他人の異なる生活スタイルを認めるようになってきた。こうした急激な社会変化のなかで、中国人の恋愛に対する意識やそれに関わる行動は、もはや伝統的なものとは大きく異なるものとなってきている。中国の街中で人目もはばからず抱擁したりキスをしたりするカップルの姿を目にするといったこともよくある。

では、中国人の恋愛に対する意識や恋愛に関わる行動は、現時点において日本人のそれと比較すると、どのようなものとなっているのだろうか。

2006年12月下旬に、サーチナ総合研究所が中国において恋愛意識についてのアンケート調査を行っており<sup>1)</sup>、筆者はそれと同じ内容のアンケート調査を、2008年3月に日本において実施した。本論文において、アンケート調査によって得られた客観的なデータに基づいて、日本人と中国人の恋愛についての意識を比較分析し、日本人との比較において中国人の特徴を明らかにしたい。

### 1 アンケート調査のサンプル属性について

中国側調査について

中国側サンプルについては、以下の表のとおりである。

年齢層については、20歳台前半が全体の43%を占め、20歳台全体で全体の73%を占める。それに更に30歳台前半をも加えると、全体の大半、83%を占める。この調査で重点を置いたのは、これらの年齢層だということができる。調査対象は、更に10歳台から50歳台以上にまで及んでいる。

地域については、全国を対象とするが、北京市・上海市・広東省・遼寧省・四川省にサンプル

---

1) 『中国消費者の生活実態2007-2008』サーチナ総合研究所企画・編集 株式会社サーチナ発行 2007年3月発行

の10%ずつを割いている。北京市・上海市という中国を代表する二大都市は、それぞれ全国の人口の1%強しか占めないにも関わらず、サンプル数においては計20%を占めている。それに沿海部の先進地域であり省の一人当たりGDP（2006年）が全国平均の1.5倍以上ある天津市・浙江省・江蘇省・広東省をも加えると、人口においては全国の19%を占めるに過ぎないこれらの地域が、サンプル数においては、それを大きく超える全体の44%をも占める。（ちなみに、遼寧省も、東北地方においては、1人あたりGDPの最も高い先進地域といえる。）調査対象者は、全国平均よりは、先進的で都会的な地域に一定程度偏っているといえよう。

アンケート調査は、サーチナ総合研究所がその中国現地法人である上海新秦商務諮詢有限公司とともに、その管理するモニターに対しオンライン調査をおこなう方式で実施された。

調査時期 2006年12月20日～12月25日

サンプル数 2000人

性別 男女それぞれ50%ずつ

月収	499元以下	19.2%
	500元以上1000元未満	6.5%
	1000元以上2000元未満	27.9%
	2000元以上3000元未満	18.1%
	3000元以上4000元未満	11.9%
	4000元以上5000元未満	5.4%
	5000元以上6000元未満	4.0%
	6000元以上7000元未満	2.3%
	7000元以上8000元未満	1.3%
	8000元以上9000元未満	1.0%
	9999元以上10000元未満	0.5%
	10000元以上15000元未満	0.9%
	15000元以上	1.3%

年齢	10歳代	5.9%
	20-24歳	43.0%
	25-29歳	29.8%
	30-34歳	10.5%
	35-39歳	4.7%
	40歳代	4.1%
	50歳代以上	2.2%

地域	北京市	10.0%
	四川省	10.0%
	広東省	10.0%
	上海市	10.0%

## 中国人の恋愛意識

遼寧省	10.0%
浙江省	6.7%
江蘇省	6.1%
山東省	4.6%
福建省	3.4%
湖北省	3.0%
河北省	3.0%
広西チワン族自治区	2.7%
安徽省	2.5%
江西省	2.5%
河南省	2.5%
湖南省	2.1%
陝西省	2.0%
重慶市	1.9%
天津市	1.3%
吉林省	1.1%
黒龍江省	1.0%
山西省	1.0%
貴州省	0.6%
その他	2.5%

### 日本側調査について

筆者の実施したアンケート調査の日本側サンプルについては、以下の表のとおりである。

年齢層については、各年齢層の占める比率を、ほぼ完全に近く中国側の調査に合わせた。地域についても、中国側調査と同様、全国を対象とするが、東京都・大阪府という大都市部の人口比率をあえて高くし、人口において全国の17%を占めるにすぎないそれらの地域を、サンプル数においては全体の40パーセントを占めるようにした。男女比は、本来厳密に言うと男女50%ずつではなく、また日中間でも差があるが、やはり中国側調査に合わせて男女50%ずつとした。

この調査の企画・分析等は近藤によるものであるが、サンプルに対するアンケート調査実施の部分に関してのみは、株式会社メディアインタラクティブに委託し、その管理するモニターに対しオンライン調査をおこなったものである。

調査時期	2008年3月末
サンプル数	300人
性別	男女それぞれ50%ずつ
月収10万円未満	50.7%
10万円以上15万円未満	8.0%

	15万円以上19万円未満	11.3%
	20万円以上25万円未満	11.0%
	25万円以上29万円未満	9.3%
	30万円以上35万円未満	3.0%
	35万円以上40万円未満	2.3%
	40万円以上50万円未満	0.7%
	50万円以上60万円未満	1.3%
	60万円以上70万円未満	1.0%
	70万円以上80万円未満	0.3%
	80万円以上90万円未満	0.0%
	90万円以上100万円未満	0.3%
	100万円以上	0.7%
年齢	10歳代	6.0%
	20-24歳	41.3%
	25-29歳	30.0%
	30-34歳	10.0%
	35-39歳	4.7%
	40歳代	4.0%
	50歳代	4.0%
地域	東京都	23.3%
	大阪府	16.7%
	神奈川県	11.3%
	愛知県	5.3%
	埼玉県	5.3%
	北海道	5.3%
	兵庫県	4.0%
	千葉県	3.7%
	福岡県	3.3%
	京都府	2.7%
	長野県	1.7%
	宮城県	1.3%
	茨城県	1.3%
	静岡県	1.3%
	愛媛県	1.3%
	香川県	1.0%
	奈良県	1.0%

長崎県	1.0%
大分県	1.0%
岩手県	0.7%
秋田県	0.7%
福島県	0.7%
島根県	0.7%
岡山県	0.7%
広島県	0.7%
山口県	0.7%
熊本県	0.7%
その他	2.6%

## 2 アンケート調査の各質問項目の結果分析

### ① (中国Q14<sup>2)</sup>, 日本Q1)「あなたは恋をしたいと思いますか。」

「現在恋をしている」の選択率は、中国27.8%、日本8.0%であり、中国が大差をつけて日本を上回っている。年齢別に見ても、10代・20代・30代・40代・50代以上すべての年齢層で中国が日本を上回っている。なぜこのような結果が出たのか確かなこと分らないが、中国の方が日本よりも、職場その他様々な場面におけるいわば人と人との距離とでもいったものが近く、気を遣わない親しい人間関係を作りやすく、日本の方が人間関係が遠慮しあい気の使う改まった疎遠な関係であることが多い(職場での人間関係はあくまでも職場での公的な関係に過ぎない傾向がある。)ので、あるいはそうした原因のために、中国人の方が好きな相手を見つけやすいのかもしれない。

ただし、「常にそう思う」の選択率は、10代・20代・30代・40代・50代以上すべての年齢層で日本が中国を上回り、「常にそう思う」と「時々そう思う」の合計でも、10代を除くすべての年齢層で日本が中国を上回っている。(10代に関して言うと、日本側調査のサンプル数が不足しており、また、思春期にある10代は、十何歳であるかによって、その恋愛についての意識が大きく変化することが多いと思われるなかで、中国側調査における10代のサンプルの詳しい年齢構成が日本側のそれとほぼ同様であるのか不明なので、10代の中国人が同年齢の日本人より恋をしたいという意欲・願望が強いと簡単に見なしてよいのか、確かなことはわからない。)

40代・50代以上に関して言うと、「常にそう思う」「時々そう思う」のいずれもが、日本が中国を少なからず(あるいは大幅に)上回り、「常にそう思う」「時々そう思う」に更に「現在恋をしている」を加えた3選択肢の合計でも、40代は日本75.0%、中国40.7%、50代以上は日本

---

2) 「中国Q」の後ろの数字は、『中国消費者の生活実態2007-2008』第2部第4章における質問項目番号を示している。

50.0%，中国38.7%で、やはり日本が中国を少なからず、ないしは相当に上回っている。それに対し、「あまりそう思わない」「全くそう思わない」は、いずれも中国が日本を2倍から3倍のパーセンテージをつけて圧倒的に上回っている。

サンプル数が十分ではないが、40歳台以上について言うと、日本人の方が中国人よりも、恋愛に関して強い意欲がある可能性が高いといえよう。

Q あなたは恋をしたいと思いますか。

		日本	中国	日本男	中国男	日本女	中国女
<b>全 体 (N)</b>		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	常にそう思う	36.3	24.6	37.3	30.1	35.3	19.1
2	時々そう思う	34.0	28.0	33.3	28.1	34.7	27.9
3	あまりそう思わない	11.3	8.7	11.3	8.0	11.3	9.4
4	全くそう思わない	5.3	5.4	4.7	4.3	6.0	6.5
5	現在恋をしている	8.0	27.8	7.3	23.1	8.7	32.5
6	わからない	5.0	5.5	6.0	6.4	4.0	4.6

② (中国Q15, 日本Q1SQ1) 「恋をしたいと思うのはなぜですか」

「結婚相手を探したいから」の選択率が、中国では42.1%，日本では26.5%と、日中で大きく異なっている。中国人は日本人よりも、恋愛を結婚と結びつけて考えることが多く、中国人は結婚を前提とした恋愛である傾向が強いといえる。

Q 恋をしたいと思うのはなぜですか。(複数回答)

		日本	中国	日本男	中国男	日本女	中国女
<b>全 体 (N)</b>		180.1	183.9	201.0	194.5	159.1	170.8
1	結婚相手を探したいから	26.5	42.1	30.2	44.0	22.9	39.8
2	1人だと寂しいから	43.1	42.0	55.7	45.0	30.5	38.3
3	単純に相手が好きだから	33.2	36.3	40.6	35.6	25.7	37.2
4	年齢的に相手がいてもよい年なので	22.3	26.0	22.6	29.2	21.9	22.1
5	デートの相手が欲しいから	25.6	26.0	33.0	30.9	18.1	19.8
6	その他	11.4	項目なし	6.6	項目なし	16.2	項目なし
7	分からない	4.7	1.0	1.9	0.5	7.6	1.7
8	特に理由はない	13.3	10.5	10.4	9.3	16.2	11.9

③ (中国Q16, 日本Q1SQ2)「あなたが恋人を選ぶときに重視するポイントは何ですか。」

日中とも圧倒的多数が性格を重視しているという点では共通している。しかし、日中間に大きな差が現れたのも事実である。

「性格」「価値観」については、日中間に顕著な差が現れたわけではないが、前者が日本95.7%、中国90.0%、後者が日本64.9%、中国53.7%と、日本人の方が中国人よりも重んじているという結果が出た。

「家族の賛成」は、日中間の差が最も大きい選択肢であり、中国30.5%、日本11.4%と、中国における重視が際立っている。「地位や名誉」と「仕事力・学力」も、日中間の差が大きい選択肢であり、それぞれ、中国12.7%、日本5.7%、中国63.1%、日本34.6%と、いずれも中国における重視が目立っている。「家柄」「経済力」も、それぞれ、中国7.0%、日本4.7%、中国44.5%、日本31.8%と、いずれも中国においての方が重視されている。

今回の調査結果から見るかぎり、性格や価値観といった、性格的・精神的に合うかどうかといったことは日本人の方が重んじているといえそうである。

一方、中国人は日本人よりも経済力や面子・体面といった側面を重んじているといえる。中国では家族の賛成も重視されるが、これらのことは、中国人が恋愛を結婚とからめて考える<sup>3)</sup>ことも、その要因の一つとなっていよう。(もっとも、そもそも結婚についての意識同士を日中間で比較しても、中国人は経済力や面子・体面、家族の賛成といったことを日本人より重んじている<sup>4)</sup>)。また、日本より所得格差の大きい国であること、伝統的に面子を重んじる国であることなども、その要因となっていよう。「地位や名誉」「仕事力・学力」「家柄」3項目の日中差(中国のパーセンテージの日本のそれに対する倍率は、各項目それぞれ順に、2.2倍、1.8倍、1.5倍である。)が「経済力」の日中差(中国のパーセンテージの日本のそれに対する倍率は、1.4倍である。)より大きいことから考えると、日中の違いは、経済的に豊かな生活に対する執着度の違い以上に、面子・体面・名誉への執着度の違いが大きいということができよう。

なお、日本青少年研究所の『高校生の意欲に関する調査報告書』(2006年10-12月調査。2007年4月発行)問21によると、高校生を対象としたアンケート調査において、「偉くなると、異性にもてる」という選択肢の選択率が、中国は17.5%、日本は7.2%であり、中国人は日本人よりも社会的に出世することが異性にもてることにつながると見る傾向が強いという結果が出ている。やはり中国の方が恋愛においても社会的成功を重視する社会であるということが裏付けられる。

男女の差について見ると、日本・中国のいずれにおいても、女性が男性より明らかに「仕事

---

3) ②参照。

4) 本論文では扱わないが、結婚についての日本人および中国人の意識についても、サーチナ総合研究所が中国において実施したアンケート調査の結果と、それにサンプル属性・質問内容を合わせて筆者が日本において実施したアンケート調査の結果とを比較することによって、比較することが可能であり、その比較の結果、やはりこのような特色を見ることができた。(詳細については、いずれ別の論文において発表する予定である。)

力・学問力」「経済力」「家族の賛成」を重視しているが、その男女差は、日本の方が中国よりも大きい。それは、中国の方が相対的に女性の社会進出の進んだ、女性が経済的に独立して生活してゆくことのできる社会であることの表れであるといえよう。(もちろん、中国においても、「仕事力・学問力」「経済力」「家族の賛成」に対する重視の度合いに関して大きな男女差が存在しており、そのことは、中国もまだなお十分に男女平等の国になってはいないことを明確に表しているともいえる<sup>5)</sup>が。)

Q あなたが恋人を選ぶときに重視するポイントは何ですか。(複数回答)

		日本	中国	日本男	中国男	日本女	中国女
<b>全 体 (N)</b>		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	性格	95.7	90.0	96.2	88.5	95.2	91.9
2	仕事力・学力	34.6	63.1	20.0	50.7	48.6	78.5
3	外見	54.0	58.8	63.2	70.6	44.8	44.3
4	価値観	64.9	53.7	58.5	54.1	71.4	53.2
5	経済力	31.8	44.5	13.2	30.6	50.5	61.7
6	家族の賛成	11.4	30.5	6.2	24.7	16.2	37.7
7	地位や名誉	5.7	12.7	3.8	8.6	7.6	17.9
8	家柄	4.7	7.0	4.7	5.8	4.8	8.5
9	国籍	7.1	5.8	7.5	5.0	6.7	6.8
10	特にない	1.9	1.4	1.9	1.9	1.9	0.9

④ (中国Q17, 日本Q2)「恋愛は仕事や勉強にどのような影響があるとお思いになりますか。」

「プラスに影響する」と「マイナスに影響する」の合計は、日本68.3%, 中国53.7%と、日本が中国を上回り、「特に影響はない」は、中国35.6%, 日本16.7%と、中国を日本を大幅に上回る。日本人の方が中国人よりも、恋愛の影響を大きく受けるといえる。

なぜそうなるのか確かなことは分からないが、③などの結果から見て、日本人の恋愛の方が、中国人の恋愛よりも純粋に感情面で好きだということによる面が大きく、中国人の恋愛は日本人の恋愛と比べ、単に感情面で好きだという以外の現実的な側面によっている部分が多い。おそらくそのために、日本人の方が恋愛によって感情が大きく左右されやすいのではなかろうか。

5) また、回答サンプル数が少なすぎるとはいえ、「家柄」を重視している者の人数の比率が、日本においては男女同程度であるのに対し、中国においては女性が男性よりもかなり多くなっており、それも、中国が十分に男女平等の国にはなっていないことの表れと見るべきかもしれない。

Q 恋愛は仕事や勉強にどのような影響があるとお思いになりますか。

		日本	中国	日男	中男	日女	中女
<b>全 体 (N)</b>		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	プラスに影響する	58.3	45.1	59.3	51.9	57.3	38.2
2	マイナスに影響する	10.0	8.6	6.0	8.6	14.0	8.5
3	特に影響はない	16.7	35.6	19.3	30.4	14.0	40.7
4	わからない	15.0	10.9	15.3	9.1	14.7	12.6

⑤ (中国Q18, 日本Q3-1)「同性愛についてどのようにお考えになりますか。」

理解できるとする2つの選択肢の選択率の合計は、日本が56.7%、中国が58.8%と、日中間にほとんど差がなかった。理解できないとする2つの選択肢の選択率の合計は、日本が34.4%、中国が26.6%と、日本が中国を上回った。大差とはいえないものの、この調査結果のみから見る限り、中国人の方が日本人よりも同性愛に対してやや寛容だという結果となった<sup>6)</sup>。

改革開放が進展するなかで、中国人のイデオロギーは開放的、許容的になり、個個人の選択を尊重して他人の異なる生活スタイルを認めるようになり、そうした急激な社会変化のなかで、中国人の恋愛に対する意識が、伝統的なものとは大きく異なるものとなったことの現われであるといえよう。

最近中国において同性愛に対する意識が急速に寛容になってきていることについては、たとえば『中国総覧2007～2008年版』(中国総覧編集委員会編 ぎょうせい 2008年9月発行)が、その456ページにおいて以下のように記している。(該当箇所は潘允康による。)

「従来、多くの中国人は同性愛を否定してきたが、現在では黙認されるようになってきている。1997年、男色を禁じてきた法律が撤廃され、2001年には精神疾患を示す公的文書から、『同性愛』の文字が削除された。2006年3月に北京で開催された全国政治協商会議の席上では、ある政協委員から同性愛結婚を認めるよう議案が提出され、国内外で大きな論争が生まれるようになった。

2007年12月10日には、『新浪網』に2007年中国『同性愛』10大ニュースと題したプログが登場した。『女性組織者訓練キャンプ』が珠海で開催されたとするニュースによると、最近中国各地で20名前後の女性が自発的にグループをつくり、コミュニティ内での相互扶助を目指すとともに、同性愛者の市民権獲得に向けて活動しているというのだが、こうしたグループの半数は2007年になって誕生しているという。

2008年1月28日付『タイム誌』(中国語版)によれば、北京の工人体育館の西側に『目的地』という名のバーがあり、そこが北京でもっとも有名な同性愛者用のバーだという。このバーには、

6) 調査結果に表れた日中の同性愛に対する理解度の差がこの程度のものであれば、後ろの「3 まとめ」において述べているこのアンケート調査の性質・問題点をも考え合わせると、実際のところは、同性愛に対して中国人の方が日本人よりも寛容だとは必ずしも言いきれない。あるいはむしろ逆であるかもしれない。

週末ともなれば数百人もの同性愛者が一斉に集う、と同誌は伝えている。」

また、『人民網』日本語版2007年11月14日も、以下のように記している。

『「同性愛者であることが職業選択にあたって不利な条件となるか」を聞いた最新の調査で、『ならない』と答えた人は、米国の86%を越える90%に上った。(略) 李研究員は『この結果は中国社会が同性愛に対してより寛容になったことを示しており、大きな進歩といえる』と語った。『中国新聞網』が伝えた。

中国では、同性愛者がウェブサイトやバー、救急ホットラインなどを開くケースが増え、公共の場で抱き合ったりキスをしたりする姿も見られるようになった。大多数の中国人が『同性愛者と異性愛者は人格的に平等で、同様の雇用機会を持つ』という考え方を受け入れられるようになってきた。専門家によると中国の同性愛者は約3000万人と推定される。恋愛対象として同性を好む人が100人のうち2、3人いる計算となる。李研究員によると、過去において同性愛者は、苦痛を感じながら世間に知られないようひっそりと暮らす、自殺傾向が一般より高いグループだった。現在では、通信の発達によって、苦しいときはウェブ上でチャットの仲間を探すことなどが生活の一部となり、同性愛者同士で交流会やスポーツ大会、ピクニックなどの活動を開くなど生活様式にも多様な選択肢が生まれた。」

ただし、同性愛が自分にも起こり得ると考えている者の比率は、日本人が中国人を多少上回っている。

Q 同性愛についてどのようにお考えになりますか。

		日本	中国	日男	中男	日女	中女
<b>全 体 (N)</b>		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	自分にも起こり得、理解できる	7.0	5.6	9.3	6.5	4.7	4.6
2	起こり得ないが理解できる	49.7	53.2	34.7	47.0	64.7	59.3
3	あまり理解できない	20.7	16.3	24.7	18.5	16.7	14.0
4	全く理解できない	13.7	10.3	19.3	13.8	8.0	6.7
5	特に意見はない	9.0	14.8	12.0	14.2	6.0	15.4

⑥ (中国Q19, 日本Q3-2)「結婚を前提とした同棲についてどのようにお考えになりますか。」

「自分にも起こり得、理解できる」の選択率は、日本が56.3%、中国が46.7%、「起こり得ないが理解できる」の選択率は、日本が30.3%、中国が24.8%、であった。日中それぞれにおけるこれらの選択肢の選択率の合計(つまり理解できるとする回答の比率)は、日本が86.6%、中国が

69.5%、である。理解できないとする回答の選択率(「あまり理解できない」と「全く理解できない」の合計)は、日本が9.0%、中国が8.0%、である。理解できないとする比率が日本が中国をやや上回ってはいるものの、基本的に中国人の方が結婚を前提とした同棲に厳しいと見てよからう。

40代以上について見ると(サンプル数、特に日本側のサンプル数が、40代で12人、50代で12人と極めて少なく、正確に比較することはできないが)、40代においては、「自分にも起こり得、理解できる」の選択率は、日本が41.7%、中国が27.2%、「起こり得ないが理解できる」の選択率は、日本が58.3%、中国が21.0%、「あまり理解できない」と「全く理解できない」の合計は、日本が0%、中国が19.2%、であり、50代以上においては、「自分にも起こり得、理解できる」の選択率は、日本が33.3%、中国が13.6%、「起こり得ないが理解できる」の選択率は、日本が58.3%、中国が38.6%、「あまり理解できない」と「全く理解できない」の合計は、日本が8.3%、中国が31.9%、であり、40代以上における日中間の差がより際立っている。

それに対し、20代についてのみ見ると、「自分にも起こり得、理解できる」は、日本58.9%、中国50.8%、「起こり得ないが理解できる」は、日本27.6%、中国23.2%、「あまり理解できない」は、日本6.6%、中国4.7%、「全く理解できない」は、日本が1.9%、中国2.2%であり、日中差は小さい。

結婚を前提とした同棲については、40歳台以上の世代におけるように顕著な日中間の差は、20代の若い世代にはもはやなくなっていると言うこともできよう<sup>7)</sup>。

Q 結婚を前提とした同棲についてどのようにお考えになりますか。

全 体 (N)		日本	中国	日男	中男	日女	中女
1	自分にも起こり得、理解できる	56.3	46.7	60.0	50.6	52.7	42.8
2	起こり得ないが理解できる	30.0	24.8	24.7	25.0	36.0	24.5
3	あまり理解できない	6.7	6.3	5.3	5.6	8.0	7.0
4	全く理解できない	1.3	2.7	0.7	1.9	2.0	3.5
5	特に意見はない	5.3	19.6	9.3	16.9	1.3	22.2

⑦ (中国Q20, 日本Q3-3)「結婚を前提としない同棲についてどのようにお考えになりますか。」

「自分にも起こり得、理解できる」とする回答は、日本が29.3%、中国が18.0%である。

理解できるとする回答の選択率の合計(「自分にも起こり得、理解できる」と「起こり得ないが理解できる」の合計)は、日本が57.3%、中国が47.8%、で日本が中国を多少上回っている。ただし、理解できないとする比率の合計も日本36.0%、中国31.0%で、やはり日本が中国をやや

7) 後ろの「3 まとめ」において述べているこのアンケート調査の性質・問題点をも考え合わせると、結婚を前提とした同棲に関して、20歳台においても、やはり日本人が中国人よりもある程度は寛容であると見た方がよいかもしれない。

上回っている。理解する者の比率が日中間で大きく違うとは言えない。

自分にも起こり得ると考えている人の比率が日本が中国より多いことが特徴と言えよう。

Q 結婚を前提としない同棲についてどのようにお考えになりますか。

		日本	中国	日男	中男	日女	中女
全 体 (N)		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	自分にも起こり得、理解できる	29.3	18.0	37.3	21.3	21.3	14.7
2	起こり得ないが理解できる	28.0	29.8	25.3	30.9	30.7	28.7
3	あまり理解できない	25.0	20.8	24.0	18.8	26.0	22.7
4	全く理解できない	11.0	10.2	6.7	8.9	15.3	11.5
5	特に意見はない	6.7	21.3	6.7	20.1	6.7	22.4

⑧ (中国Q21, 日本Q3-4)「あなたはネット恋愛についてどのようにお考えになりますか。」

「自分にも起こり得、理解できる」の選択率は、日本が15.3%、中国が22.7%、「起こり得ないが理解できる」の選択率は、日本が25.3%、中国が36.7%であった。日中それぞれにおけるそれらの選択肢の選択率の合計（つまり理解できるとする回答の比率）は、日本が40.6%、中国が59.4%である。「全く理解できない」とする回答の選択率は、日本が21.3%、中国が7.3%、「あまり理解できない」とする回答の選択率は、日本が31.0%、中国が14.6%、である。

この結果から見るかぎり、ネット恋愛については、中国人の方が明らかに理解があり、また自分にも起こり得ると考える傾向が強いといえる。そして、この傾向は、詳しいデータは省略するが、男性、女性、10代、20代、30代、40代、50代以上のすべてにおいて、おおむねあてはまる傾向でもある。インターネット・カフェ（网吧）を利用する中国人の多さも、大きな要因になっているかもしれない。

ただし、この調査はそもそも（日中とも）インターネットによるモニター調査であり、インターネット利用度の高い回答者が多くなっていると思われ、このような設問に対する回答は、日本人・中国人の平均的な姿から乖離していると思われ、しかも、そのそれぞれの国の国民の平均からの乖離の程度も、日本と中国では同程度ではなく、中国が日本より、より大きなものとなっている可能性が高い<sup>8)</sup>。したがって、この項目の結果の信頼性に関しては、十分な慎重さを要する。

では、ネット恋愛の広まり、ないしネット恋愛に対する理解度について日中を比較するとどうなるかと考えるべきであろうか。確かなことはわからないが、これについて一つ参考になるデータがある。高校生に関するものではあるが、日本青年研究所がインターネットではなく質問紙により実施した日中米韓同時アンケート調査<sup>9)</sup>の結果によると、インターネットの利用率は日本

8) 「3 まとめ」を参照のこと。

9) 『高校生の意欲に関する調査報告書』（2006年10-12月調査、2007年4月発行）p. 36-37, p. 55-56

## 中国人の恋愛意識

が明らかに中国を上回っているものの、「頻繁に利用しているインターネット機能」中「チャット、メッセングジャ」機能の利用率については、日本は4カ国の中で際立って低く、中国（38.5%）が日本（7.4%）を大幅に上回っている。（中国はインターネットの利用率では日本に及ばないにも関わらず、「頻繁に利用しているインターネット機能」全9項目の利用率の合計では、中国216.9%、日本142.2%と、日本をかなり上回っているので、中国の「チャット、メッセングジャ」機能の利用率も実際以上に高く出ていると考えて、それをある程度差し引いていて考える必要があるかもしれないが、たとえその点を考慮に入れたとしても、やはり「チャット、メッセングジャ」機能の利用率は中国が日本を大幅に上回っていると考えられる。）中国がインターネットそのものの利用率においては日本に及ばなくても、インターネット恋愛をする者やそれを理解する者の比率においては日本を上回っているというのは、十分ありうることであろう。

Q あなたはネット恋愛についてどのようにお考えになりますか。

		日本	中国	日男	中男	日女	中女
全 体 (N)		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	自分にも起こり得、理解できる	15.3	22.7	20.0	25.6	10.7	19.8
2	起こり得ないが理解できる	25.3	36.7	27.3	35.3	23.3	38.0
3	あまり理解できない	31.0	14.6	30.7	13.1	31.3	16.0
4	全く理解できない	21.3	7.3	15.3	5.8	27.3	8.8
5	特に意見はない	7.0	18.8	6.7	20.2	7.3	17.4

⑨（中国Q22，日本Q3-5）「あなたは結婚前の不倫や浮気についてどのようにお考えになりますか。」

「自分にも起こり得、理解できる」の選択率は、日本が15.7%、中国が8.3%、「起こり得ないが理解できる」の選択率は、日本が27.0%、中国が21.6%であった。日中それぞれにおけるそれらの選択肢の選択率の合計（つまり理解できるとする回答の比率）は、日本が42.7%、中国が29.9%である。

「全く理解できない」とする回答の選択率は、日本が26.7%、中国が24.2%と、日本が中国を僅かに上回っていたものの、「全く理解できない」とする回答の選択率と「あまり理解できない」とする回答の選択率の合計は、日本が49.4%、中国が52.2%であった。

起こり得ると考える者の比率が、日本の方が顕著に高く、理解できるという者の比率も日本の方が高いと見てよかろう。

Q あなたは結婚前の不倫や浮気についてどのようにお考えになりますか。

		日本	中国	日男	中男	日女	中女
<b>全 体 (N)</b>		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	自分にも起こり得、理解できる	15.7	8.3	19.3	10.0	12.0	6.6
2	起こり得ないが理解できる	27.0	21.6	28.0	23.5	26.0	19.6
3	あまり理解できない	22.7	28.0	20.7	26.3	24.7	29.6
4	全く理解できない	26.7	24.2	20.7	22.7	32.7	25.6
5	特に意見はない	8.0	18.1	11.3	17.5	4.7	18.6

⑩ (中国Q23, 日本Q3-6) 「あなたは不特定多数の人との恋愛についてどのようにお考えになりますか。」

「自分にも起こり得、理解できる」の選択率は、日本が12.7%、中国が7.8%、「起こり得ないが理解できる」の選択率は、日本が26.0%、中国が18.8%であった。日中それぞれにおけるそれらの選択肢の選択率の合計（つまり理解できるとする回答の比率）は、日本が38.7%、中国が26.6%である。

「全く理解できない」とする回答の選択率は、日本が25.7%、中国が30.8%であり、「全く理解できない」とする回答の選択率と「あまり理解できない」とする回答の選択率の合計は、日本が53.4%、中国が58.5%であった。

起こり得ると考える者の比率が、日本の方が顕著に高く、理解できるという者の比率も日本の方が高いと見てよからう。

Q あなたは不特定多数の人との恋愛についてどのようにお考えになりますか。

		日本	中国	日男	中男	日女	中女
<b>全 体 (N)</b>		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	自分にも起こり得、理解できる	12.7	7.8	18.0	9.9	7.3	5.6
2	起こり得ないが理解できる	26.0	18.8	28.7	20.7	23.3	16.9
3	あまり理解できない	27.7	27.7	24.7	26.5	30.7	28.9
4	全く理解できない	25.7	30.8	18.7	27.5	32.7	34.1
5	特に意見はない	8.0	15.0	10.0	15.4	6.0	14.5

⑪ (中国Q24, 日本Q4) 「恋人の他に好きな人が現れたらどうなさいますか。」

「現在の恋人と別れる」の選択率は、日中とも23%ほどで差が見られなかった。

## 中国人の恋愛意識

「新しい方の人をあきらめる」の選択率は、中国29.5%、日本18.0%で中国の方が高く、「どちらとも付き合わない」の選択率も、中国5.5%、日本2.7%で中国の方が高い。「どちらとも付き合いたい」の選択率は、日本が16.3%、中国が10.4%で日本の方が高い。

日本人の方が感情のままに行動する、ないしは、理性やモラルが相手を変えたり二股をかけることをあまり妨げないのに対し、中国人の方が、簡単に相手をかえてはいけないという社会規範意識を強くもっていると思われる。

そうした日中の意識の差は男女ともにあてはまるものであるが、とりわけ女性の場合の日中差がより顕著である。（「新しい方の人をあきらめる」の選択率は、日本の女性12.0%、中国の女性27.6%、「どちらとも付き合いたい」の選択率は、日本の女性14.0%、中国の女性7.8%、「どちらとも付き合わない」の選択率は、日本の女性が2.7%、中国の女性が5.9%である。）

Q 恋人の他に好きな人が現れたらどうなさいますか。

全 体 (N)		日本	中国	日男	中男	日女	中女
1	新しい方の人をあきらめる	18.0	29.5	24.0	31.4	12.0	27.6
2	現在の恋人と別れる	23.0	23.2	18.7	20.6	27.3	25.8
3	どちらとも付き合いたい	16.3	10.4	18.7	13.0	14.0	7.8
4	どちらとも付き合わない	2.7	5.5	2.7	5.1	2.7	5.9
5	わからない	40.0	31.4	36.0	29.9	44.0	32.9

⑫（中国Q25、日本Q5）「遠距離恋愛は続くとお思いになりますか。」

「続く」の選択率は、日本が4.7%、中国が14.0%であった。確信をもって続くという回答者は中国の方が多いといえることができる。

日本人の方が気軽に相手を換えてよいと考え、中国人の方が簡単には相手を換えるべきではないと考える傾向があるということが、⑨⑩⑪⑫から共通して見て取れる。（そもそも、②を見ればわかるように、中国人は日本人よりも恋愛を結婚と結び付けようとする傾向が強い。そのこともこうした傾向を生み出す一つの重要な要因となっていよう。）

Q 遠距離恋愛は続くとお思いになりますか。

全 体 (N)		日本	中国	日男	中男	日女	中女
1	努力すれば続く	55.7	56.3	51.3	54.7	60.0	57.8
2	続かない	28.7	24.2	31.3	23.1	26.0	25.3
3	続く	4.7	14.0	4.7	16.8	4.7	11.2
4	わからない	11.0	5.6	12.7	5.4	9.3	5.7

⑬ (中国 Q26, 日本 Q6) 「あなたは恋人とデートをする時、何をなさいますか。」

日中差が特に大きい選択肢は、「公園や名所旧跡に行く」と「お酒を飲む」である。

「公園や名所旧跡に行く」は、日本33.3%、中国72.9%である。

「お酒を飲む」は、日本20.0%、中国8.3%である。博報堂生活総合研究の「Research Report」2008.03.10によると、「あなたはお酒を飲みますか」というアンケート調査において、「お酒を飲む」と回答した人の比率は日本人男性82.0%、中国人男性64.8%、日本人女性64.5%、中国人女性12.7%であったという。飲酒率は男女とも日本が高く、とりわけ女性の飲酒率は日中間に極めて大きな差がある。デートでお酒を飲むことが日本人に多いのは、当然のことといえよう。

Q あなたは恋人とデートする時、何をなさいますか。(3つまで)

		日本	中国	日男	中男	日女	中女
<b>全 体 (N)</b>		269.9	300.6	269.3	299.2	272.2	298.0
1	食事に行く	86.3	73.5	87.3	72.4	85.3	74.6
2	公園や名所旧跡に行く	33.3	72.9	32.0	75.9	34.7	69.8
3	映画などインドアで過ごす	54.7	67.9	58.0	66.9	51.3	68.9
4	アウトドアで過ごす	25.3	35.5	24.0	31.9	26.7	39.0
5	家で過ごす	43.3	28.6	38.0	29.4	48.7	27.8
6	お酒を飲む	20.0	8.3	21.3	11.0	18.7	5.5
7	その他	2.0	11.4	2.0	11.3	3.0	11.4
8	わからない	5.3	0.7	6.7	0.4	4.0	1.0

⑭ (中国 Q27, 日本 Q7) 「デートの際にどちらがお金を払うべきとお思いになりますか。」

「割り勘」が日本17.0%、中国32.7%で、中国においてその比率が高い。もともと中国においては食事の際におごること伝統があり、それが現在も根強く残っているが、それがデートという場においても現れたものといえよう。

男性が払うべきとする回答は、日中のいずれにおいても男性に多いが、中国においてその傾向が顕著である。割り勘にすべきだとする回答は、日本においては男性に多いが、中国においては女性に多い。どちらでもよいという回答は、日中のいずれにおいても女性に多いが、中国においてその傾向が顕著である。この結果から、中国人男性が日本人男性よりも女性に対する面子にこだわっている様子が見て取れる。日本よりも女性が社会で活躍し、家事の分担などにおいても日本より男女平等である中国であるが、こうした面においては保守的であるといえよう。

中国人の恋愛意識

Q デートの際にどちらがお金を払うべきだと思いにありますか。

		日本	中国	日男	中男	日女	中女
全 体 (N)		100.0	100.0	100.	100.0	100.0	100.0
1	男性	29.7	33.9	32.0	39.9	27.3	27.8
2	女性	0.3	1.1	0.7	1.7	-	0.4
3	割り勘	32.7	17.0	34.7	14.2	30.7	19.8
4	どちらでもよい	36.0	47.2	31.3	13.9	40.7	50.5
5	わからない	1.3	0.9	1.3	0.3	1.3	1.5

⑮ (中国Q28, 日本Q8) 「どちらから交際を申し込むべきと思いにありますか。」

「男性」とする回答が、日本人27.3%, 中国人45.1%であり、「どちらでもよい」とする回答が、日本人69.0%, 中国人が51.8であった。(「女性」とする回答は、日中ともごく僅かで、日本2.3%, 中国2.0%であった。) 中国人の方が日本人よりも、男性が交際を申し込むことにこだわっているといえる。

男性から申し込むべきとする回答、どちらから申し込んでもよいとする回答は、いずれも日本では男女差が小さい(ないしは存在しない)が、中国においては男女の意識差が大きく、女性が受動的に男性からの交際の申し込みを待っているという状況が比較的多いことが見て取れる。

中国は、一般的に日本と比べ、女性の社会的地位が高く、家事なども男性がする比率が高い国であると考えてよいはずであるが、しかしながら、⑭同様、⑮のこうした面にも、やはり古い伝統的な意識・習慣が、日本よりも根強く残っている。

Q どちらから交際を申し込むべきだと思いにありますか。

		日本	中国	日男	中男	日女	中女
全 体 (N)		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	男性	27.3	45.1	27.3	35.0	27.3	55.2
2	女性	2.3	2.0	4.7	3.1	-	0.9
3	どちらでもよい	69.0	51.8	66.0	61.4	72.0	42.2
4	わからない	1.3	1.1	2.0	0.5	0.7	1.7

⑯ (中国Q29, 日本Q9) 「普段、恋人にどのように気持ちを伝えますか。」

「黙っていても伝わる」が、日本8.0%, 中国18.4%, 「言葉で表現する」が、日本49.0%, 中国38.0であった。中国人の方が日本人よりはっきりと言葉で意思を表示すると一般的に思われて

いるのではないかと思うが、逆の結果が現れている。

男女間の愛情を直接言葉で伝えることに関しては、物を言うこと一般とは異なり、日本人の方が欧米の影響を比較的強く受けてははっきりと言葉で愛情を伝える傾向があり、中国人の方が伝統的な観念を残して控えめなのかもしれない。あるいは他の原因を考えるべきかもしれない。この点を真に明らかにするためには、更に別の調査が必要となりそうである。

「プレゼントを贈る」は、日本3.0%、中国9.7%、であった。中国人の方が日本人よりも、プレゼントを恋人に贈ることが多いといえる。明白なデータ上の根拠は示せないが、様々な機会に物を贈る習慣は、もともと恋人間に限らず中国の方が多くと思われる。そうした物を贈る習慣一般の違いも、中国人の方がプレゼントを恋人に贈ることが多い重要な要因になっていよう。

「スキンシップ」は、日本23.0%、中国13.5%、であり、日本人の方が中国人よりも、スキンシップで愛情を表現することが多いといえる。より詳細に結果を見ると、日本人男性20.0%、中国人男性18.2%、日本人女性26.0%、中国人女性8.8%であり、中国人女性の比率が低いのが際立っている。なお、⑩の結果によると、結婚前の恋人とのスキンシップについて、日本人の方がより激しく濃厚なものまで可能としており、スキンシップの内容を、日本人の方がより濃厚な行為まで含めて考えているかもしれない。

「ネットを通して」の回答は極めて少なく、結果をどの程度信頼してよいかわからないが、中国3.6%、日本1.3%と、中国が日本を大きく上回っている。これは、⑧の結果に符合している。この結果からも、恋愛においてネットを利用することについては、やはり中国人の方が積極的と言えそうである。ただし、⑧においても述べたとおり、この調査はそもそも（日中とも）インターネットによるモニター調査であり、インターネット利用度の高い回答者が多くなっていると思われる、このような設問に対する回答は、日本人・中国人の平均的な姿と大きく乖離している可能性が十分にありえ、またその乖離の程度も日中間で同程度であるとは言えないので、この結果はあまり信頼してはいけないかもしれない。

Q 普段、恋人にどのように気持ちを伝えますか。

		日本	中国	日男	中男	日女	中女
全 体 (N)		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	言葉で表現する	49.0	38.0	50.0	36.3	48.0	39.6
2	黙っていても伝わる	8.0	18.4	9.3	18.1	6.7	18.6
3	スキンシップ	23.0	13.5	20.0	18.2	26.0	8.8
4	プレゼントを贈る	3.0	9.7	4.7	9.4	1.3	9.9
5	ネットを通して	1.3	3.6	1.3	3.9	1.3	3.2
6	手紙	2.3	3.3	2.0	3.3	2.7	3.2
7	その他	1.3	0.5	2.0	0.7	0.7	0.3
8	わからない	5.3	1.0	5.3	0.8	5.3	1.2

中国人の恋愛意識

9	特がない	6.7	12.3	5.3	9.3	8.0	15.2
---	------	-----	------	-----	-----	-----	------

⑰ (中国Q30, 日本Q10-1)「恋人と過ごしたいイベント」

「交際開始日」は、日本15.7%、中国49.1%と、中国が日本に大差をつけて上回っている。(男女別で見ても数値はほとんど変わらない。) そもそも一般的に中国人の方が記念日の類を大事にする傾向があるかもしれないと思う(それを裏付ける客観的データがないので、確かなことは言えない。)が、たとえそうした類いの要因があったとしても、それ以外にもおそらく重要な要因が関わっているのではなかろうか。⑨⑩⑪⑫の結果からうかがえたように、日本人と中国人の恋愛を比較すると、日本人は気軽に相手をかえ、中国人は一人の相手との関係を大事に保つていこうとする傾向がある。そのため、中国人においては日本人においてよりも、大事な一人の相手との交際開始日(や相手の誕生日など)がより重い意味をもち大切にされているのかもしれない。2007年3月に株式会社ネクストと毎日コミュニケーションとによって共同で実施された“20代社会人の恋愛観と結婚に関する調査”<sup>10)</sup>によると、20代社会人の28%は、現在の恋人との交際期間が1年未満である(17%は半年未満)という。日本人の場合、恋人との交際が長く続かず、恋人との交際期間が1年に至っていない場合も少なくないといえる。そうであれば、そのこともまた、日本側の「交際開始日」のパーセンテージを引き下げる要因になっていよう。

「相手の誕生日」も、日本77.0%、中国85.0%で、中国が日本を上回っている。これについては、上に述べたとおりである。

「クリスマス」は、日本70.7%、中国38.2%で、日本を中国を大幅に上回っている。中国において、クリスマスがまだ日本におけるほどに重要な日とはなっていないことの表れであろう。一方、「バレンタイン」は逆に、日本33.7%、中国82.3%で、中国が日本を大幅に上回っており、バレンタインが非常に重視されているといえよう。

「大晦日」は、日中間に大差がない。「正月(中国は旧正月)」は、日本11.0%、中国6.4%で、日本が中国をかなり上回っている。中国では少ないが、それは中国人が(旧)正月は(日本人以上に)家族と過ごすからであろう。

Q 恋人と過ごしたいイベント (3つまで)

		日本	中国	日男	中男	日女	中女
全 体 (N)		240.1	278.7	230.1	279.3	250.0	277.7
1	相手の誕生日	77.0	85.0	76.7	86.2	77.3	83.8
2	バレンタイン	33.7	82.3	29.3	81.1	38.0	83.4

10) 「HOME'Sリサーチ」“20代社会人の恋愛観と結婚に関する調査”2007年4月13日発表。http://club.homes.co.jp/research

3	交際開始日	15.7	49.1	16.0	50.5	15.3	47.6
4	クリスマス	74.0	32.3	69.3	30.1	78.7	34.5
5	大晦日	15.0	15.3	14.0	16.9	16.0	13.7
6	正月（中国は旧正月）	11.0	6.4	10.7	6.9	11.3	5.9
7	その他	2.7	7.0	2.7	6.5	2.7	7.4
8	わからない	2.3	0.6	4.7	0.4	-	0.8
9	特にない	8.7	0.7	6.7	0.7	10.7	0.6

⑱（中国Q30，日本Q10-2）「恋人にプレゼントを贈りたいイベント」

⑰とほぼ同様の傾向が見て取れる。要因分析も同様に考えればよいであろう。

ただし、「大晦日」「正月（中国は旧正月）」については、日本人でプレゼントを贈りたいイベントと考える人の比率がいずれも1.0%であり、中国を大幅に下回り、ほとんど全くに近く存在しないといえる。日本人は中国人と違い、たいていクリスマスにプレゼントを贈るからであろう。中国においては、大晦日と旧正月をプレゼントを贈りたいイベントと考える人が、それぞれ1桁のパーセンテージとはいえ存在する。

Q 恋人にプレゼントを贈りたいイベント（3つまで）

		日本	中国	日男	中男	日女	中女
<b>全 体 (N)</b>		222.6	284.8	201.4	284.2	243.1	284.9
1	相手の誕生日	85.0	90.9	80.7	89.2	89.3	92.6
2	バレンタイン	41.3	87.8	17.3	87.1	65.3	88.5
3	交際開始日	11.3	43.2	16.7	45.2	6.0	41.2
4	クリスマス	70.7	38.2	68.0	36.7	73.3	39.6
5	大晦日	1.0	8.9	1.3	9.7	0.7	8.0
6	正月（中国は旧正月）	1.0	5.4	2.0	5.9	-	4.8
7	その他	2.0	9.2	2.7	9.5	1.3	8.8
8	わからない	2.3	0.7	4.7	0.6	1.3	0.7
9	特にない	7.0	0.5	8.0	0.3	6.0	0.7

⑲（中国Q33，日本Q11）「結婚する前に，恋人とどの程度までのスキンシップが可能だと思いにありますか。」

日本では78.7%が「性行為」と回答した。（男性より数値がやや低めの女性でも，76.0%が「性行為」と回答した。）日本人の大半が性行為まで可能と考えているといえる。それに対し，中国

## 中国人の恋愛意識

で性行為が可能との回答は32.5%にとどまった。

「性行為」「体に触れる」「キスをする」以外の回答、つまりそれらをいずれも不可能とする人の比率は、日本5.6%、中国16.0%であった。

中国は社会が大きく変化し、恋愛に関しても開放的になったとはいえ、男女関係に距離をとろうとする伝統的な意識がなお強く残っているといえよう。

なお、「性行為」との回答の選択率は、年齢層別に見ると、中国においては、10代27.4%、20代37.1%、30代21.5%、40代7.4%、50代以上15.9%であり、日本においては、10代33.3%、20代83.2%、30代90.0%、40代100.0%、50代66.7%であった。（日本の10代・40代・50代については、サンプル数が非常に少ないので、結果の信頼性に問題はあるが、）40代以上においては中国側の数値がととも低く、日中差が非常に大きくなっている。20代においては、中国側の数値も、中国の他の年代よりは高く、日中差が比較的小さくなっている。中国社会の改革解放が進むなかで、中国人の性についての意識も大きく変わってきたことの表れであろう。ただし、その20代でも、日本83.2%、中国37.1%と、日中間に依然として非常に大きな差が存在している。

Q 結婚する前に、恋人とどの程度までのスキンシップが可能だと思いにになりますか。

		日本	中国	日男	中男	日女	中女
全 体 (N)		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	性行為	78.7	32.5	81.3	34.9	76.0	30.1
2	体に触れる	5.31	27.3	5.3	28.3	5.3	26.3
3	キスをする	10.3	24.3	8.7	21.7	12.0	26.8
4	手をつなぐ	3.31	9.4	4.0	9.2	2.7	9.5
5	抱き合う	2.01	4.9	0.7	4.5	3.3	5.2
6	その他	0.3	1.8	-	1.4	0.7	2.1

⑳（中国Q34, 日本Q12）「あなたは結婚前の恋人との性行為についてどうお思いになりますか。」

「結婚を考えない相手でもよい」とする回答は、日本48.7%、中国19.5%であり（20代のみで比較しても、日本51.9%、中国20.9%である。）、日本が中国を大きく上回っている。一方、「結婚を考えない相手とはしない」とする回答は、日本7.3%、中国11.2%であり（20代のみで比較しても、日本5.1%、中国9.3%である。）、中国が日本を上回っている。

「結婚を考える相手でもしない」とする回答は、日本2.3%、中国9.2%であり（20代のみで比較しても、日本2.8%、中国7.8%である。）、中国が日本を大きく上回っている。

中国人が日本人よりも、結婚前の性行為に対し控えめ、ないし慎重な様子が、明確に見て取れる。

Q あなたは結婚前の恋人との性行為についてどのようにお思いになりますか。

		日本	中国	日男	中男	日女	中女
全 体 (N)		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	結婚を考える相手ならよい	33.7	52.4	34.0	53.6	33.3	51.1
2	結婚を考えない相手でもよい	48.7	19.5	54.0	24.3	43.3	14.6
3	結婚を考えない相手とはしない	7.3	11.2	6.0	10.8	8.7	11.5
4	結婚を考える相手でもしない	2.3	9.2	1.3	5.0	3.3	13.4
5	わからない	8.0	7.9	4.7	6.3	11.3	9.4

②(中国Q48, 日本Q13)「男性が年上の女性と付き合うことについてどのようにお思いになりますか。」

「自分にも起こり得, 理解できる」の選択率は, 日本が52.3%, 中国が22.8%であり, それに「起こり得ないが理解できる」をも加えた, いわば「理解できる」の選択率の合計は, 日本が85.6%, 中国が66.5%であった。

一方, 「全く理解できない」とする回答の選択率は, 日本が0.7%, 中国が6.4%であり, 「全く理解できない」とする回答の選択率と「あまり理解できない」とする回答の選択率の合計は, 日本が4.7%, 中国が16.6%であった。

自分にも起こり得ると考える者, および理解できると思う者のいずれも, 日本人の方が中国人よりも比率が高いといえる。

Q 男性が年上の女性と付き合うことについてどのようにお思いになりますか。

		日本	中国	日男	中男	日女	中女
全 体 (N)		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	自分にも起こり得, 理解できる	52.3	22.8	62.0	22.5	42.7	23.1
2	起こり得ないが理解できる	33.3	43.7	22.7	41.0	44.0	46.3
3	あまり理解できない	4.0	10.2	4.7	11.9	3.3	8.5
4	全く理解できない	0.7	6.4	0.7	7.8	0.7	4.9
5	特に意見はない	9.7	17.0	10.0	16.8	9.3	17.2

### 3 まとめ

中国では改革開放以前における中国人の恋愛に対する態度・意識は, 非常に控えめなものであっ

たが、改革開放が進展するなかで、中国人のイデオロギーは急速に開放的、許容的になり、個人の選択を尊重して他人の異なる生活スタイルを認めるようになってきた。こうした急激な社会変化のなかで、中国人の恋愛に対する意識やそれに関わる行動は、伝統的なものとは大きく異なるものとなっている。そうした中、中国人の恋愛に対する意識や恋愛に関わる行動が、現時点において日本人のそれと比較すると、どのようなものとなっているのかを、今回アンケート結果という客観的データに基づいて分析した。

調査の主たる対象者は20歳代（ないしは20歳代に30歳代前半を加えた年齢層）であったが、結婚を前提としない同棲、結婚前における不倫や浮気、不特定多数の相手との恋愛、恋人以外に好きな人が現れた場合に新しい相手に乗りかえたり二股をかけたりすること、結婚前の恋人との性行為などに関して、中国人は日本人ほどは許容しない傾向が見られた。遠距離恋愛が続くという意見も、中国側に多かった。

中国人は恋人との関係を結婚と結びつけて考える傾向が日本人よりも強く、結婚できる一人の相手との関係を大事にし、結婚を前提としない同棲や結婚していない相手との性行為には慎重・控えめであるといえる。恋人との付き合いに家族の賛成が必要と考える向きも少なくなく、恋人との付き合いに面子・体面・名誉や経済力を重視する傾向も強かった。

また、中国は、社会進出や家事の分担など多くの面において日本よりも男女平等の国であり、一般的に言って男女格差の日本より小さな国というべきであることは言うまでもないが、しかしながら、男女の交際は男から申し込むべきとの意識が強く、男性が年上の女性と付き合うことに対して抵抗を感じる人も多いなど、恋愛に関して言うならば、なお様々な点で、日本より伝統的な社会規範意識を強く残しているといえる。（ただし、同性愛に対する許容度はすでにかかなりの程度になっており、また、ネット恋愛に対する許容度は、このアンケート調査の結果から見るかぎり、日本を上回っている。）

日本のインターネット人口は、総務省発表の「情報通信白書」によると、2007年末の時点で8811万であり、その時点での日本の対総人口比でのインターネット普及率は69.0%であった。（本論文において使った日本側アンケート調査の実施時期は2008年3月である。）それに対し、中国のインターネット人口は、中国互聯網絡信息中心の発表によると、2006年末（つまり本論文において使われている中国側調査の実施時点）において1億3700万人、つまり対人口比では10.5%であった。中国のインターネットの普及の速さにはめざましいものがあるが、調査時点においては、中国はやはり明らかに日本ほどはインターネットが普及していないといえる。今回の調査の主要対象であるような若年層を中心とした年齢の人々に限定すると、インターネット普及率の日中差は、日本と中国の国民全体同士の比較の場合と比べれば大きく縮まるが、やはりそれでも中国の方がインターネット普及率は明らかに低い<sup>11)</sup>。全員がインターネット利用者である本調査

11) CNNIC（中国互聯網絡信息中心）が2007年1月に発表した「第19次中国互聯網絡發展狀況統計報告」によると、2006年12月における中国の年齢層別インターネット利用率は、もっとも利用率の高い18-24歳において35.2%、次に利用率の高い25-30歳において19.7%であった。これらは、同じく中国の31-35歳の10.4%、36-40歳の8.2%、41-50歳の6.2%、51-60歳の2.2%、60歳以上の0.9%などと比べると明らか

の回答者は、おそらく国民全体の平均よりも、伝統的なことよりも新しいことを好む傾向があるかと推測されるが、そうした今回の回答者と国民の平均との乖離の度合いは、おそらく本調査においても、日本より中国の方が大きいと見るべきであろう。とすると、日本と中国を比較する場合、中国については、この調査の結果は、実際の中国よりも、新しい考え方や行動モードを好む人々の特色を反映しすぎている面があると推測され、実際の中国は、おそらく本調査で現れた結果よりもより強く伝統的社会規範意識を残している可能性が高いと考えるべきであろう。

ただし、これらはいくまでも調査時点における結果を比較分析したものであり、恋愛に対する意識一とりわけ中国側のそれは、今後大きく変化してゆくものと考えられるべきであろう。

---

に利用率が高いが、日本人のインターネット利用率と比較すると、その若い世代はもとより、日本国民全体の利用率と比べても、利用率がなおかなり低いといえる。